

日本アグファ

速乾成功への道示す

平河工業社で実演とセミナー

日本アグファ・ケバル社は6月11日、平河工業社小竹事業所で「速乾印刷実演セミナー」を開催した。

開催に先立ち松石浩行社長が「アズーラを販売していく中、多くのユーザーから水が絞れるという特長をしっかりと伝えて印刷機の運用を提案すべきとのアドバイスを受けた。しかし、プレート

メーカーだけでは印刷機の運用問題は解決できないため、印刷指導の豊富な東京テックプラスの加藤社長に相談し協力して展開するようになった」と速乾印刷を促める活動を開始した経緯を説明した後、「東京での開催は平河工業社様以外にない」と考え、ご協力いただきたい。速乾印刷はアズーラを使用すれば可能という



アズーラを軸に現場を革新、速乾に成功

「では、メンテナンスの重要性を述べた後、「速乾印刷は印刷機が常に同じ状態に保たれているからできる。職人の腕は伝承できないが、数値化は誰にでも伝えることができる」とポイントを語った。そして、油性印刷の乾燥時間を短縮させるには「ローラー調整」「温水管理」「適正濃度での印刷」が大切であるとし、「グレースの除去やニップ調整でローラー間のインキ転移性を最大限にする。水の絞りはニップ設定と水の処方で可能であり、必要最小限のインキで最大濃度を狙うことができれば、数分で乾燥化による受注拡大と資材

節約につながる」と条件を説いた。加藤氏が指導した印刷会社の事例では、トレーニンク前に平均8000回転で印刷機を回しているものがトレーニンク後には平均1万3000回転まで向上。また、版交換から本刷りまでの時間も40分から15分に短縮、1台あたり30分の時間削減に成功した。これは、プロセス4色の刷り出し枚数にも大きな変化をもたらし、1台あたり250枚の減少という効果を上げているという。この結果から用紙削減効果の大きさに触れ、「速乾印刷を実現することで短納期化による受注拡大と資材

節約につながる」と条件を説いた。加藤氏が指導した印刷会社の事例では、トレーニンク前に平均8000回転で印刷機を回しているものがトレーニンク後には平均1万3000回転まで向上。また、版交換から本刷りまでの時間も40分から15分に短縮、1台あたり30分の時間削減に成功した。これは、プロセス4色の刷り出し枚数にも大きな変化をもたらし、1台あたり250枚の減少という効果を上げているという。この結果から用紙削減効果の大きさに触れ、「速乾印刷を実現することで短納期化による受注拡大と資材

削減での収益力アップと同時に達成できる。今は利益を著実に積み上げていくことが重要。今の時代、取りこぼしは戻せない。

タイガ 中古機の売買サイト開設

プロ限定で高い信頼性

印刷はまだ儲かる」の真実を目の当たりにした来場者は刷り上がりを確認していた。

経済産業省など3省は5月、2012年版「ものづくり白書」を公表した。国際的な構造変化に直面し、付加価値の低下で利益確保が困難になりつつある中小の製造業を展望する。中核人材の育成・確保を大きな課題として取り上げた。昨年実施した調査では、5割以上の企業が「中核人材が不足して

いる」とする一方で、その育成について、中小企業は大企業に比べて「うまくいっていない」という回答が多かった。要因として「育成

応として、キャリア形成支援を希望する従業員に対する外部の訓練支援体制の整備、製造現場を熟知した技能士金メダルを獲得したことを特筆した。会の開催による技能振興を紹介。2011年にイギリスで開かれた第41回技能五輪国際大会において、11職種で金メダルを獲得したことを特筆した。

タイガ(河合学社長)は、国内初の中古印刷機材に特化した売買情報交換サイト、「中古印刷機材.com」(http://used-print-machine.com)を6月1日にオープンした。会員審査を経た印刷機材商社やメーカー等に限定したプロフェッショナル専門のサイトであることが特徴。初年度の流通総額は1億円を目標とし、会員獲得や売買希望の掲載を増やしていく。

印刷業界の市場規模の縮小に伴い、印刷会社は設備投資に慎重になっていく。その中において、中古印刷機材には一層の注目が集まっている。中古印刷機材の市場は国内で約400億円前後(タイガ独自算出)とみられ、今後さらに増加する可能性がある。

印刷会社と印刷機材商社のビジネスを応援する」を理念に、より広い商圏の中で、かつ効率的に商談のチャンスが生まれる仕組みの提供を考えた。「中古印刷機材.com」には、印刷機材商社やメーカー等の「機材を

き 的 販 お 門 な 5 未 円 1 金 額 合 実 希 索 ら 未 る 要 請 イ を

「中古印刷機材.com」のスタートページ